

「閉じられた自己」という側面から考察する「自己覚知」の展開

—多面的視点から援助者としての自己を把握する手法の構築に向けて—

○山梨県立大学 大津雅之 (5538)

キーワード：自己覚知・閉じられた自己・スーパービジョン

1. 研究目的

「自己覚知」に関する定義は多くの文献に記されている。たとえば空閑は、「自己覚知」について「援助者が自己の価値観や感情などについて理解しておくこと。援助職に共通して求められる。人は誰かに関わる際に、自己の価値観などを基準にして、その人を見ることが多い。しかし、援助者がクライアントに関わる際に、自らの価値観や偏見、先入観を基準にしたままでは、クライアントを正しく理解できないばかりか、信頼関係の構築の妨げにもなりかねない。自己覚知は、援助者としての自らの専門性の維持、向上のために、またクライアントとの援助関係構築のためにも必要不可欠である。スーパービジョンや研修などの機会を利用するなどして、自己覚知に務めることが求められる」（空閑：2013）としている。この「自己覚知」に対しては、足立による「良心的エゴイズム」という側面からの言及がある。足立は、「良心的エゴイズム」を「いうなれば『他者に関心を向けようとしている<その自分だけ>にしか意識や関心を向けていない』ありようだといえよう。したがって、そうした良心的エゴイストにとって他者との人間関係とは、自分は『こうあるべきだ』という信念や態度の確かさを確かめ、自己評価するための大事な手段としてだけ大切なのである・・・(中略)・・・『良心的エゴイズム』に陥っている人にとって『自己』とは、他者との関係において、その他者の気持ちや感情に対して、もっぱら『閉じられた自己』として体験されている」（足立：1994）としている。そこで、本研究では、足立の言及する「閉じられた自己」という側面から「自己覚知」の展開について考察してみたい。

2. 研究の視点および方法

本研究では文献研究を採用した。方法は「自己覚知」に関する複数の文献を整理しながら、とりわけ「閉じられた自己」という側面から「自己覚知」について言及している理論を抽出し、その検討を行った。なお、本研究で用いた文献および抽出した理論の詳細は、研究発表時配布資料にて紹介する。

3. 倫理的配慮

本研究に際しては、発表者が所属する一般社団法人日本社会福祉学会の「日本社会福祉学会研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を参考に、引用の明記およびCOI（利益

相反)が無いことの確認等、研究倫理の遵守に努めた。

4. 研究結果

「閉じられた自己」という側面から「自己覚知」について言及している理論としては、一例として尾崎によるものが非常に際立っている。尾崎は、そもそも「自己覚知」には「客観的理解」という無理があると指摘している。尾崎によれば、「従来、自己覚知の方法として、『自分を客観的に理解すること』が重視されてきた。『客観』とは、だれの目から見ても同じように見えるということであり、また実証性をともなった見方という意味でもある。あるいは、偏見や先入観のない見方ということでもある」とする一方、「しかし、『自分を客観的に理解する』という考え方や方法には、限界と無理がある。だれでも、自分を完璧に客観視することはできない。ビデオや写真に自分を撮影しても、ビデオや写真を見るのは主観によってである。つまり、自分を自分から切り離して、まったく客体化することはできない」としている。ゆえに、「自分を理解する方法は、『主観的でよいから、自分を多面的に観ること』である。・・・(中略)・・・偏見とは、『偏った見方』である。すなわち、偏見をもたない方法は、『偏見をもたぬようにすること』ではなく、『さまざまな種類の異なった偏見をできるだけたくさんもつこと』である。さまざまな視点で自分を観れば、それらが主観によるものであっても、見方が偏ることを防ぐことができる」(尾崎：1994)としている。尾崎は、このように「自己覚知」には、「客観的理解」という無理があると指摘しながらも、「さまざまな視点で自分を観る」方法についても提案している。

5. 考察

ここでは、尾崎の言う「さまざまな種類の異なった偏見をできるだけたくさんもつこと」をスーパービジョンと絡めて考察してみたい。スーパーバイザーに新たな視点をもたらすことのできるスーパーバイザーの存在も、1人よりは2人以上の複数人で取り組む方が、「自分を多面的に観る」ことができ、「自己覚知」の側面でも有効なのではないだろうか。その場合のスーパービジョンについては、とりわけピア・グループ・スーパービジョンの概念や理論などを用いながら、今後、さらに深めることができると考える。

引用・参考文献

- ・ 空閑浩人(2013)「自己覚知」山縣文治・柏女霊峰『社会福祉用語辞典：福祉新時代の新しいスタンダード 第9版』ミネルヴァ書房, p125.
- ・ 足立勲(1994)「I ナルシズムと良心的エゴイズム」早坂泰次郎『<関係性>の人間学—良心的エゴイズムの心理—』川島書店, p20 - 23.
- ・ 尾崎新(1994)『ケースワークの臨床技法—「援助関係」と「逆転移」の活用—』誠信書房, p161.